



サイエンスプロデューサー よねむらでんじろう 米村傳治郎のおもしろ科学館

スローライフの楽しみ、 日光写真

おおさわさちこ
大沢 幸子 (フリーライター)

幕末期にわが国に入ってきた写真術。坂本竜馬の写る銀板写真に始まって、いまや時代はデジカメ全盛期。でも、どんな最新型カメラでも、光がなければただの箱。それが一番実感できるのが日光写真だ。好天の休日、ひと工夫加えた日光カメラにチャレンジして、最先端モデルでは決して味わえないスローライフの醍醐味を満喫しよう！

日光写真

「日光写真」というと『え、東照宮の写真?』なんてこと言う人がいますが、この場合の日光は地名じゃなくて、お日様のことですからね。冒頭、こう念を押し

て傳治郎先生は日光写真の撮影法を伝授してくれた。

なプラスチック

材料

ネガ (トレーシングペーパーなどある程度光を通すもの)、印画紙、厚紙、透明

作り方

トレーシングペーパーに自分の好きな絵を書いてネガを作る。これを印画紙と重ねて、厚紙で作った日光写真セット板



に挟み込み、日に当てておく。しばらくすると、印画紙にネガの絵が写って日光写真の出来上がり。

身分証明書類に貼り付ける写真も、ネガさえあればDPE屋さんに行らなくとも、太陽光がいくらでも焼いてくれる。ポスターと証明写真をあわせて焼く裏技も覚えておくと、いざというとき役に立つかも。

さて、ここでちょっと小学校の授業でやった青写真のことを思い出してみよう。実はあれも立派な日光写真なのだ。写し方は白い紙を切り取って、葉っぱをその上に乗せて日に当てておくだけ。そのうちに葉っぱの形が青く浮かび上がってきたのを覚えているかな。

